

主に喜ばれる日

マタイ12：1～14

外国のある保険会社から、統計によると礼拝に出席する人は出席しない人より5～7年位長生きするという興味深い話を聞きました。聖書にも、箴言3:2「そうすれば、あなたに長い日と、いのちの年と平安が増し加えられる」。また同じ箴言9:11に、「わたしによって、あなたの日は多くなり、あなたのいのちの年は増すからだ」とあります。主に安息日を献げるならば、主はその日の日数を寿命に加えて返して下さるのです。それならば、安息日は一日中、神様のための日ということになります。

私たちは今、日曜日を礼拝の日、主日としています。この主日の一日をどのような意識で過ごすのが良いのでしょうか？喜びと感謝と感激の日、いのちの日ですか。それとも、義務と形式の日でしょうか。

聖書の学び

I、安息日(聖日)と、主の日(主日)の違い

1、安息日(聖日)

- ①安息日は天地創造の第7日目に、主なる神様が休まれたことから始まっている。
- ②律法には「どんな仕事もしてはならない」(申命記5:14)とあり、ユダヤのラビたちは安息日にしてはならないことを39種類も作って掟としていた。

2、主の日(主日)

- ①主の日は、イエス・キリストが十字架で死なれ、復活された日の日曜日に集まり、復活の主にお会いし、主のよみがえりを喜ぶところから始まっている。
- ②使徒たちは安息日の土曜日に神殿で礼拝し、日曜日にも主イエス・キリストを礼拝していたが、やがて日曜日だけに主日として集まり、礼拝するようになった。
- ③主の日とは、復活の主に出会う日という意味で、再臨の日にも用いられている。

Ⅱ、主の日はイエス様のための日 (マタイ12：1～14)

安息日に礼拝を捧げて帰る途中の、弟子たちをパリサイ人たちは律法的に非難しました。

- 1、主イエスは、弟子たちのためにダビデのたとえを引用されました。
何を言おうとされたのでしょうか？ (4～7節)

* 弟子たちに罪はない… 主イエスは「きまり」よりも、人の方が大事だと言われる。

- 2、三位一体の神である主イエス・キリストは、安息日の主であり(8節)、
復活の日・日曜日の主人です。それなら、礼拝の後の時間はどのような
思いで過ごしたら良いのでしょうか？ (7節)

Ⅲ、主に喜ばれることをする日

- 1、片手の不自由な人を癒した主イエスをパリサイ人たちは訴えましたが、
イエス様の答えはどのようなものでしたか。 (11、12節)
- 2、羊よりも勝る人間を愛するために、十字架にいのちを捨てて下さい
ました。この主に私たちは第1にまず、どうしたら良いのでしょうか。
(ヨハネ4：23)
- 3、次に、特に主の日は主の新しい戒めを実行する日です。
それは「互いに愛し合うこと」です。(Ⅰヨハネ3：11～18)
- 4、パウロは主の日の具体的な心構えをⅠテサロニケ5：11～23に
書いています。主イエスが望んでおられることは何でしょうか？